



## 2011年度を迎えて

— 集え我ら、固き友情未来へつなげ! —

育成会会長 長田 均彦



2011年度、46団は発団創立40周年を迎えました。

入隊・上進式が、9月5日(日)に育成会総会が、9月26日(日)に挙行されスローガン「集え我ら、固き友情未来へつなげ!」のもと活動が動き始めました。

入隊上進式は、三田小学校体育館で行われ、20名が上進いたしました。上進スカウトと御父母の皆さまに心からお喜び申し上げます。

参加の保護者も多く、上進式もスカウト個人に光を与えた式となり、良い式が挙行でき、その晩の慰労会にも多くの参加者を得て、40周年の第一歩の行事を締めくくる事ができました。

スカウト総数55名(対前年3名減)でのスタートとなりました。

育成会総会は、創作センターで行われ、人事(案)・活動計画(案)及び予算(案)が、承認されました。登録スカウト数減少が続く昨今、組織拡張・財務委員の活動と御苦勞にたいして感謝いたしております。この活動は、これからを担うスカウトを広く募集し、育成して46団の発展に繋げる重要な課題であります。それには委員会のみならず、団・隊の一層の活動が求められます。

育成会といたしましても団の施策に精一杯の支援をいたしますので、会員各位におかれましても入団への口込みによる勧誘方に積極的御支援のほどよろしくお願

いたします。

2001年にさきの周年行事の年に新制度による会計費目として、備品積立金と財政調整資金が制定されました。

備品積立金は10年程度をスパンとする購入備品を想定し逐次購入し、想定備品の購入すみとなり、40周年を機に団備品の一層の充実と備品および保守への支出に対応すべきとして今後10年を見極めた適正な積み立て額をさだめた運用をすることとなる。

財政調整資金は、皆様の節減効果で積み上げられて来ましたが、当年度育成会費が当年度スカウト活動費に還元されないで埋蔵金的に映るので、最短期間の年度で計画的に支出するようにしたい。その観点に立ち昨年度備品積立金へ移管額で補填しました。

皆様の節減による調整資金は埋蔵金とすることが目的ではなく、育成会費と事業収益金で限度ある収入での単年度会計で賄えない支出補填を目的としているため、会計年度予算時に組み込み有効活用を図りたい。

このことは、より良いスカウティングを支える活動環境を提供し、団の発展と維持を図るためと考えます。活動環境の提供が円滑に行われた時、快適な活動が約束され魅力ある活動が展開されると確信いたします。増収は、皆さまの創意工夫により事業収入を上げていくことです。

スカウトには、「人の力になる」とおきての実践として奉仕活動へ取り組む事を教えています。育成会会員各位につきましても、互助による奉仕活動にご理解を頂きお手すきなとき、ご協力お願いします。

さて、標記のサブタイトルのスローガンを掲げシンボルマークも定まり実行部会を立ち上げ、企画会議に取り組んでおります。

- 記念式典、パーティー ..... 6月
- 植樹 ..... 6月
- ・ 団キャンプ ..... 8月
- 記念誌、記念品配布 ..... 月

これらの記念行事を川崎地区の友団スカウトおよび地区役員をお招きし、当団のスカウト、リーダー、育成会員である保護者・賛助会員・OBSで、皆様と伴に喜びあえ、スカウト達のよき思い出となる行事と致したく考えております。

賛助会員・OBSの皆さま方にも広くお誘いし、同窓会のような気持ちで、参加いただき現在の活動を見ていただくとともに往時を語り、一緒に盛り上げていただきたいと考えております。

弥栄

## 発団40周年記念事業

団委員長 多賀 譲 治

「昭和46年8月26日」この日に私たちの46団が誕生しました。



これがその時の写真（上）。  
場所はおなじみの三田小学校体育館です。  
下の写真は発団まもないころの全体写真です。



カブ隊が主でボーイの数は少ないですね・・・それは私たちの団は43団カブ第2隊が母体だったからです。  
この時から40年が経ちました。社会も大きく変わり「少子化」「お受験」「部活」などという言葉が生まれ、私たちを取り巻く環境も激変しましたが、この間も数多くのスカウトや成人指導者の熱意によって46団が支えられてきました。

川崎には21の団がありますが、46団は組織・財政の堅実さはナンバーワンと言われています。それは、諸先輩が確かなレールを敷いてくれた“たまもの”であり、何より、スカウトがピカイチの活動を続けてくれたからに他ありません。

私たちを取り巻く環境がどのように変わっても、ボーイスカウトの目指すものにブレはありません。46団は先輩たちが築き上げた伝統の上に、新たな精神を吹き込み次の10年を目指していきたいと思っています。

そのために・・・

1. もっと“冒険”を・・・スカウトやリーダーがワクワク・ドキドキ・ハラハラするような楽しいプログラムをビーバーからローバーまで取り入れる。
2. 父母と指導者の連携を強める。そのためのコミュニケーションを活発にする。

1はすでに始まっており、今後もアクティブな活動が増えていくことでしょう。2については今後の課題として意識的に行う必要があります。今後も隊や団レベルでの模索が続けられるでしょう。台風で延期になった46フォーラムを始め、いろいろな場面で楽しく集える行事を企画したいと思います。

今年度の最大のイベント「記念事業」は、ただの“お祝い”に終わることなく、これらのことに軸足を置いて企画されます。

### 40周年記念46バザール（2月27日）

例年のとおり、お母さん実行委員が中心となって行われるバザールですが、40周年をバネにしてスカウトと父母・リーダーの連携で盛り上げていきたいと思っています。

### 40周年記念団ラリー（4月17日）

スカウト・父母・リーダーが楽しく野山を駆け回ります。

### 40周年記念式典・記念植樹（6月ごろ）

現役スカウト・指導者・父母はもちろん、OBスカウト・父母・OB・賛助会員・川崎地区各団代表・地区役員など、46団に関わる多くの人とお祝いの会を開きます。ビッグイベントです。

※記念式典と植樹は会場の都合により7月になる場合もあります。

### 40周年記念誌編纂（6月※）

5年毎の周年事業に行われている私たちの記録です。

### 40周年記念グッズ作成（6月）

ローバースカウトが中心となって新しいキャップをデザイン中です。団キャンプにはお揃いの帽子で参加できることでしょう。

### 40周年記念団キャンプ（8月）

ビーバーからローバーまでの現役スカウト、父母・OBが参加する団キャンプです。インフルエンザ騒ぎで中止になった昨年の分も取り返すほどの“中身のある”団キャンプを計画中です。

いずれの企画も実行委員会が立ち上がり、計画を練り、実行に移っています。中心になって動いている方々を紹介しましょう。

式典（田中副育成会長）：植樹（高橋副育成会長）：記念誌（岩田広報委員）  
グッズ（ローバースカウト※中島君）：団キャンプ（三浦BS副長）

IT 委員長 西谷 誠介



以上の方々です。

“たまたま”ですが、チーフの在庫が底をついてきましたので、新しい生地を追加します。もっと巻きやすくなります。

また、これも、“たまたま”ですが、他団のようにTシャツやウィンドブレーカーのようなお揃いのグッズを作ろうという動きもあります。

これら40周年記念事業をバネにして46団は大きく飛躍したいと考えています。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

### 新委員長 紹介

組織拡張・財務委員長 若島 美紀子



### 入隊・上進式 2010年9月5日

上進おめでとう！

今年度より組織拡張委員長を務めさせて頂くこととなりました若島です。

息子が入団して4年目になります。色々な体験をし、日々成長を感じます。リーダーの皆様や、沢山の保護者の方々が温かく見守って下さっているおかげだと感謝の気持ちで一杯です。

スカウト達が、楽しく活動している姿をもっと多くの人に（子供達にも）知って貰えたらと願っています。

組織の事で分からない事もありますが、まずは私の出来ることを1つ1つコツコツと、そして先輩ママ達と力合わせて仲間を増やす運動をして行きます。

どうぞ宜しくお願い致します。



新ローバースカウト



新ベンチャースカウト



新ビーバースカウト



新ボーイスカウト



新カブスカウト



## ボルチモア派遣を終えて

ベンチャー隊 森 貴 基



今思うと、あの12日間は普通の僕の生活と全くかけ離れた生活だった。

現に、帰国した翌日から学校へ行き、記録的な猛暑日の中、砂まみれになって部活動を行い、今僕はボルチモアに居た時よりも更に肌は焼け黒光りしている。

しかし、非常に温かく迎えられて楽しく過ごした日々は忘れることは無いだろう。

12時間のフライトで目いっぱい映画鑑賞をして寝不足か時差ボケか判らないままボルチモアに到着し、ホストファミリーのエルスワーズ一家に直面した。Mr、エルスワーズは体もお腹もアメリカンサイズで大きい。口髭とサングラスが何とも迫力があつた。正直、ちょっと怖いと思った。

ビンセントは僕より2つ上のスカウトだ。穏やかで頼りになる兄貴だった。しかも日本語にかなり興味を持ってきている。弟、ニックは1つ下だが体は僕より大きく大人っぽい。しかし、中身は僕と同じやんちゃ坊主である。妹、ガブリエルは1つ上のおしゃべりな16歳。彼女も僕より大柄だ。

このような家族に迎えられ、家に帰った。初日の夕食は僕を気遣ってくれているのがありありと判るのだが、家族の会話が通じない!!緊張もしたし、12日間で一番寂しく思った瞬間だった。

しかし、そんな瞬間はあっという間に過ぎ去り、帰るまでには「実は、派遣スカウトの中で僕が一番コミュニケーションが取れたのでは?」と思うほどに親しくなれた。

ファミリーデーには釣りに行き、その後ビンセントとガブリエルの学校の友達を訪ねてくれて自宅のプールやバスケット、それに地元の巨大モールに連れて行ってもらった。観光地を回るよりも遥かにアメリカを感じられたと思う。そして、コミュニケーションとは言葉ではなく「伝えたい」「解りたい」という気持ちが一番で、それが態度や表情に表れて親しくなることを学んだ。ブロードクリーフでのキャンプも忘れられない。ボーイスカウト専用のキャンプ場だ。全米に6箇所もあ

るといふからスケールが違う。

どうやら、ボーイスカウトそのものの社会的認知度が日本よりも高そうだ。

テントには簡易ベットが各2つありAテン詰め込み式の日本より居心地は何倍も良い。

立ち釜を作る事もなく(壊されることも(笑))3食付き。やりたい事にはスタッフがついてくれて、バレーボールや川遊び、アーチェリーやクラフトやゲーム。なんと射撃までやってしまった。アウトドア・アトラクションのパラダイスみたいなものだ。

考えてみると、完全な「お遊び」である。こんなVIP待遇のキャンプは初めてだ。

訓練や技能といったものをキャンプでやらないでどうするのか??という気持ちもすこしあつた。

聞いたところでは、このキャンプ場に来るスカウトは取りたい技能を集中的に訓練することを目的とし、それ以外(食事や泊るところ)は施設のオプションを付けるようだ。合理的で良いと思った。

印象的なのは、キャンプファイヤーで星条旗を燃やしたこと。

国旗を燃やすなんて、過激派やデモなど、ようは国に対する不満の表れに見えるのだが実はそうではない。掲げていた星条旗が古くなり、役目を終えたその旗を感謝を持って燃やしている。決して比国民的行動ではない。しかもこの行為ができるのは、軍人とボーイスカウトだけの特権である。燃えていく星条旗を見てまたアメリカを感じてしまった。

他にも、ボルチモアオリオールズの上原選手にも逢うことができた。映画で見たホワイトハウスやリンカーン像に・・・

ボルチモア市長(女性!)にも逢えたり、偶然にも海上自衛訓練艦「かしま」が寄航しており、船にも乗せてもらえた。

もし、またアメリカに行くことがあっても観光ツアーでは絶対に経験できないことを沢山させてもらえた。ボーイスカウトならではの旅だった。

他団の友人も出来た。この出会いをきっかけに合同集会など出来たら良いと思う。

所属団のスカウトには「絶対面白いから、ボルチ行って来い!」と宣伝しようと思っている。





## 指導者訓練修了者及び奉仕者

- 1. ボーイスカウト講習会  
第918回(10月2日～3日:川崎市青少年の家) 青谷  
BVS副長、RS多賀世、RS田中  
第920回(10月30日～31日:特別養護老人ホーム 睦会  
ホーム やすらぎ(厚木市内) RS中島

- 2. WB実修所CS第150期  
基本訓練:10月9日～14日(日本連盟山中野営場) 久  
保井隊長

- 3. 団委員研修会  
11月14日(川崎市青少年の家) 久保井CS隊長、奉  
仕:多賀団委員長

- 4. WB研修所BS神奈川第105期  
9月18日～21日(日本連盟山中野営場) 奉仕:北村CS  
副長



### ボーイスカウト講習会に参加して

BVS隊 副隊長補 青谷 明

受講日:平成22年10月2日、3日

場所:川崎市青少年の家

本年度からBVS隊のリーダーとして活動をさせて頂く事になった青谷です。

リーダーとして最初の登竜門的な講習会だとお聞きしており、早速参加させて頂きました。

座学と実習が含まれたカリキュラムで座学では、BSの歴史や活動の意義などについて教えて頂き、実習では、BVS、CS、BSの活動を模擬的に体験させて頂き、30年以上も前に自分がBSであった事を少しだけ思い出し、懐かしく思いました。

2日間と言う短い講習でしたが、今後のリーダーとして活動するための参考にし、活用して行きたいと思います。



受賞おめでとうございます。

### 川崎地区褒章受賞

三浦BS副長



## 戸叶広報委員長



## ウッドバッジ実修所基本訓練に参加して

CS 隊長 久保井 基隆

ウッドバッジ実修所カブスカウトコース第150期の基本訓練が、10月9日から14日の6日間に渡り、久々に山中野営場で開催され参加した。

今回の実修所は、全国9県連から総勢27人の参加者があり、兵庫県連の枝根所長以下11人の所員による15のセッションにより開催された。尚、今回の開催は山中野営場開催と言う事もあり、神奈川県連が強力にバックアップした事を付記しておく。(大変お世話になりました。)実修所へは、研修所から5年が経ち新しい学びを得たいと考えた事、何にも増して山中野営場での開催であった事、最後に仕事の調整が「何とか(強引に)」出来た事からの参加であった。8月も終わりに近づき、水島地区コミッショナーと面談して事前課題研修を行い、何とか提出、日本連盟から参加案内が届いた時には、大丈夫?何て不安も感じつつ、開所当日を迎えた。

初日は天気予報通り「雨」、どうなる事やらと思いつつ9時過ぎに山中野営場に到着、荷物確認後グループ発表、私の入ったDグループは京都、千葉、東京、神奈川×2、群馬、岩手県連メンバーの7名構成となった。その後、佐野広場に集合、道心堅固の教えを聞いた後、ここから先は娑婆とはお別れなんて言われつつ、「道心門」を腰を屈めてくぐり抜け、いざ六角堂へ。雨の為、六角堂でのセレモニーだ。写真撮影、オリエンテーションの後、昼食を頂き、さあ雨の設営。思いの他、雨足が強く初日から悪戦苦闘だ(もう、へとへと)。その後、食事を作って何とか食べられたのだが、後で聞いてみると、食べられたのは4グループ中、2グループという散々な状況だった。

翌日から天気は回復したものの、すっきりとしない天気が続いた。しかしながら、講習中心のプログラム、天気の関係も無く、15のセッションに取り組んだ。冒頭、

枝根所長からBS講習会は“What”を、研修所は“How to”を、実修所は“Why”を学ぶ所と教えられた。なるほど、これまで何気なく、何時も通りに実施していた事に、意味があり、意義があり、目的があるという事を今更ながら学んだ。指導者たる者、スカウトにそれを説明しながら活動する必要は無いが、理解して企画から実施、反省・評価していく事が肝要なのだとの事。とにかく5日間、ボーイスカウトの話で頭がテンコ盛り状態となってしまった(もう、入らない、苦しい)。最終日前日、夜遅くまで3ヶ月を目処に退所後実施していく奉仕実績訓練の計画書作り、これも何とか書き上げ、所長のサインをやっとゲット。あ〜、やっと終わった、いやいやこれから始まりだという気持ちだ。

さて、最終日、撤営、またもや空模様怪しく、早々に作業を開始する事となった。今回の実修所は、いやはや雨に祟られている。何だかんだと撤営終了。最後のセレモニーだ。ここで一つサプライズ。久々の山中での実修所開設を記念して、掲揚柱近くに植樹をするとの事。まだ小さなイングリッシュ・オークの樹だ。ここに来る度に思い出すんだらうな、何て思い、少々目頭も熱くなってしまった。閉所式で所長から皆に修了証を手渡され、基本訓練がやっと終わったという思い、これから勉強した事を生かそう、生かせるのかという期待と不安の入り混じった複雑な気持ちになった。また、改めてスカウト達のために頑張ろうという思いも強くなった。

団委員長並びに団委員の皆さん、指導者の皆さん、これから奉仕実績訓練に入ります。学んだ事を生かすべく、今後種々試行錯誤して実行していこうと考えています。時には面倒な依頼もするかもしれませんが、何卒叱咤激励の程、宜しくお願いします。

最後に指導者の皆様方、実修所、なかなか有意義な所ですよ。それから体力も要ります。また、“会社なんてなんとかな”るという事もわかりました。(笑)何卒早目の入所をお勧めして、筆を置きたいと思えます。





清水鏡晴さん 松井克晃さん 横川信彦さん  
お手伝いありがとうございました。

## 多摩区民祭

2010年9月25日



### 広報委員

戸叶 孝司  
荒川 泰一  
岩田 雅之  
神岡 美穂  
風呂田 里栄子  
牛尾 弥生

### 編集後記

入隊して、3年が経ち息子もくまスカウトに上進し、CS上級としての自覚も出てきた様に見えます。皆を引っ張っていく事に苦戦している様ですが、入隊した頃を思うと（こんな感じだったなあ。成長しているんだなあ。）と、痛感しています。

今年度は、CSで子供と一緒に活動できるのも最後の年でもあります。楽しんで活動に参加していきたいと思っております。

風呂田 里栄子

